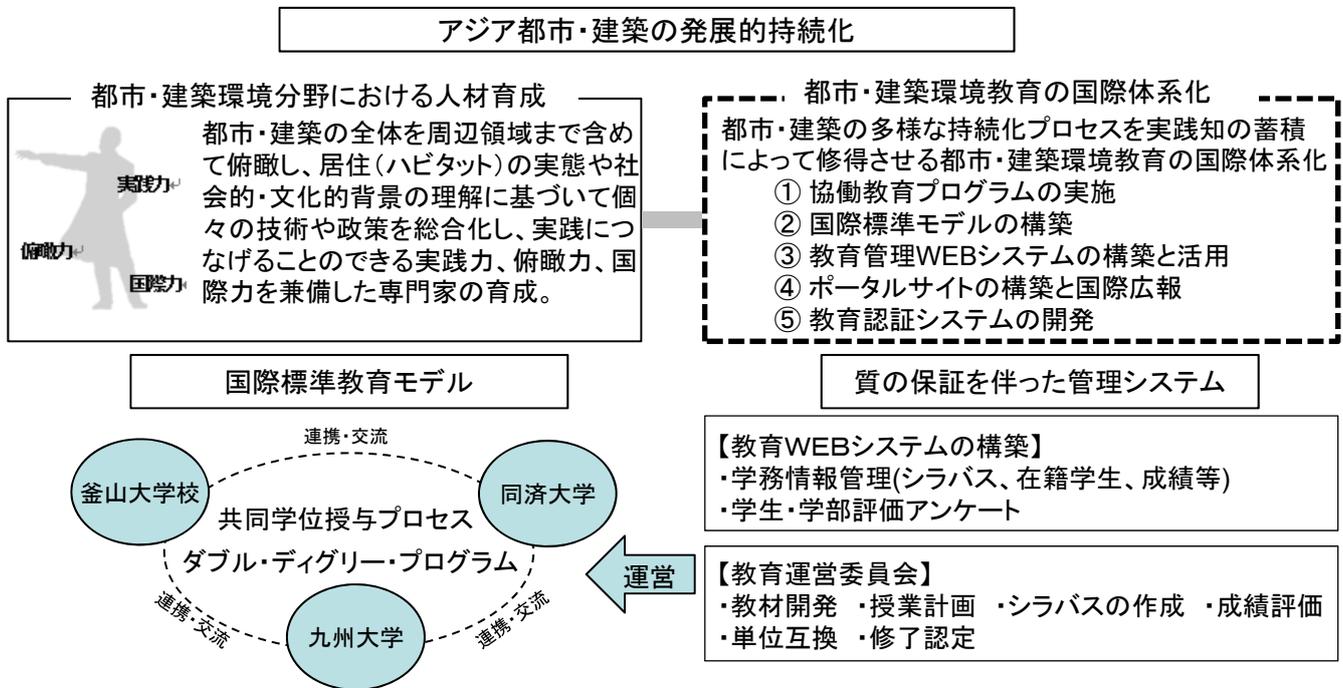


# 大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 九州大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-② CAMPUS Asia))

## アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム

### 【事業の概要】



### 【交流プログラムの概要】・【本事業で養成する人材像】

都市・建築環境は、資源・エネルギーの需要の増大、都市温暖化、大気汚染といった環境問題の根源であり、それを改善する工学的技術は継続的に開発されているが、多様な技術や方策を理解し、適切に組合せて実用化する専門家が不在している。そこで本プログラムでは、アジアにおける生活の実態や社会的・文化的背景を理解した上で、個々の技術や政策を総合化し、実践に結び付けられる、俯瞰力、実践力、国際力を高度に兼備した専門家を育成することをこの交流プログラムの目的とし、本事業で養成する人材像としている。

本プログラムにより、九州大学を拠点として、都市・建築の多様な持続化プロセスを実践的な知の蓄積によって修得させる環境教育の国際体系が確立できる。

### 【本事業の特徴】

本事業の主な計画内容は、(1)協働教育プログラムの実施、(2)都市・建築環境の国際標準モデルの構築、(3)教育WEBシステムの開発、(4)ポータルサイトの開発と国際広報、(5)教育認証システムの構築であり、事業の特徴としては以下の4点がある。

(特徴1) 都市・建築の全体を周辺領域まで含めて俯瞰することができ、その包括的な視点から都市・建築環境に関わる問題を理解し、イノベーションを通じて都市・建築の発展的持続化に向けた実践的な国際的人材の教育方法(実際に行う、意見を出し合う、情報を整理する、応用する、適切に判断する、解決策を提案する、体験にもと基づいて主体的に問題を発見し解を見出していくアクティブ・ラーニング)を開発し、継続的に実施可能な体制を整備する。

(特徴2) 本教育プログラムのフィールドをアジアに置き、都市・建築環境に関わる専門家育成の観点から現地での実践・演習や海外インターンシップを通して、国際力を習得するための国際連携の学術ネットワークを構築する。

(特徴3) プログラムの過程で得られた知見や学習成果を国内外に広く普及する情報発信の方法を開発する。

(特徴4) ダブル・ディグリー・プログラムを構築する。

### 【交流予定人数】 <タイプA-②>

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C 0	C 10	C 10	C 10	C 15
	K 0	K 10	K 10	K 15	K 10
中国(C)での受入	J 0	J 10	J 10	J 15	J 15
	K 0	K 10	K 10	K 15	K 15
韓国(K)での受入	J 5	J 10	J 10	J 15	J 15
	C 0	C 10	C 10	C 15	C 15

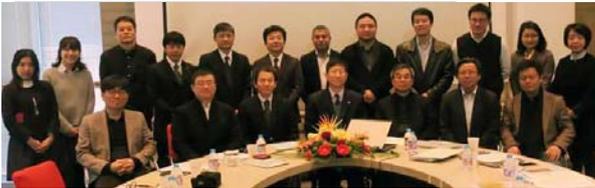
# 1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【九州大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-②) CAMPUS Asia)

アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム

## ■ 交流プログラムの実施状況



〈同済大学での第二回教育運営委員会 集合写真〉

### ①3大学コンソーシアムによる教育運営委員会の開催

日本・中国・韓国のプログラムを推進する教員およびスタッフにより3大学コンソーシアム教育運営委員会を設立し、1月にはキックオフミーティングを韓国の釜山大学校で開催した。また、第二回会議を中国の同済大学で、さらに各大学のコアメンバーを九州大学に招聘してそれぞれの大学と個別に会議を行い、今後の学生派遣・受入態勢およびスケジュールの確認や部局間協定について協議を行った。

### ②学生の短期派遣、釜山ウィンターワークショップの開催

本プログラムで平成29年度8月に実施されるサマースクールの予行として、学生を中国と韓国に短期派遣した。また、2月には釜山ウィンターワークショップを開催し、3カ国の学生が共に学びあう経験を通じ、関係者一同が事業への理解をさらに深めた。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 【日本人学生の派遣】

平成28年度より釜山大学へ14名、同済大学へ3名派遣を開始。平成29年度以降の半期派遣は計5名を同済大学・釜山大学へ派遣し、サマースクール(短期派遣)は、計15名を開催大学へ派遣する。

### 【外国人留学生の受入】

平成29年度サマースクール(短期受入)は、計15名同済大学・釜山大学より受け入れを開始する。また、同済大学・釜山大学より計5名を半期受入を開始する。平成30年度は短期受入として、計15名、計5名半期受入、平成31年度以降は、短期受入として計15名、計10名を半期受入として同済大学・釜山大学から受入を行う。

〈タイプA-②〉

	H28
日本(J)での受入	C 0 K 0
中国(C)での受入	J 3 K 0
韓国(K)での受入	J 14 C 22

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ・単位認定、成績管理の統一に向けた協議、ダブル・ディグリーの検討

プログラムを推進する教育運営委員会により、単位認定や成績管理の統一に向け、協議を開始した。各大学の条件に照らし3大学が満足する履修時間の検討や各大学が英語で提供中または今後開講予定のコースの確認等を行い、ダブル・ディグリー創設の基礎となる事項の共有を行った。平成29年度内の学生交流協定及びダブル・ディグリー協定の締結に向け、今後も3大学で綿密な協議を進める。

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

【外国人学生受入】 本事業推進室に教育支援を行う専任スタッフを配置し、3大学コンソーシアムの教育運営委員会が中心となってサマースクールの実施計画策定に着手できた。引き続き、外国人学生の履修・単位認定等の環境整備を行い、8月のサマースクールの実施に向けて準備を進める。

【日本人学生派遣】 本事業推進室の専任スタッフによる学生渡航前、帰国後の学業・生活相談体制を整え、留学中に学生の学習面のサポートを行えるよう、教育Webシステムを導入し、運用を開始した。今後の派遣については学生派遣前やサマースクール実施前に、英語力向上セミナーを定期的に開催する準備を進めており、科目履修、課程修了に支障がないようにする。また、外国人学生受入と同様、教育運営委員会を中心に、単位認定可能な科目の設定、授業カリキュラム等のつき合わせを行う。



〈釜山ウィンターワークショップ〉

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

【ホームページによる情報発信】 国内外の大学や協力企業等の学内外の関係者へ広く本事業の取り組み内容を発信するため、ホームページ(日・英)を開設し、プロジェクト概要や学生の成果物等を紹介できるようにした。今後、ホームページの内容を更に充実させ、実施状況を継続的に発信する。

【リーフレット作成・配布】 プログラムの概要・パートナー大学等について紹介するため、リーフレット(日・英)を作成し、学生及び教職員に配布を行った。今後、国内外の協力機関・企業等に配布し、更なる情報の公開やプログラムの普及を図る。

【教育管理Webシステムの構築】 国際協働教育プログラムのより効果的な運営を目指し、国際共同利用可能な教育管理Webシステムを構築し、運用を開始した。

## ■ グッドプラクティス等

平成28年度2月に開催された釜山ウィンターワークショップでは、次年度以降に実施されるサマースクールや長期派遣留学に必要な各大学の受入態勢を確認できた意義は大きい。学生にとっては国際ワークショップの参加によって海外学生との協働で課題を発見し分析する経験を得ることができ、国際人として意識の芽生えが見られた。今後本プログラムへの学生の積極的な参加に期待が持てる。

また、今後は上記ワークショップの学生の成果物について報告書を出版予定であり、平成29年度には報告会の開催を予定している。

## 2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【九州大学】

【アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム】  
(選定年度28年度・(タイプA-②) CAMPUS Asia)

### ■ 交流プログラムの実施状況



<平成29年度 8月25日SUAE Asia Forum 2017>

平成29年度はパートナー校である釜山大学校、同済大学との協働による交流プログラムを実施し、延べ114名の学生が参加した。また、8月に九州大学において開催したサマースクール(SS)では、設定した課題について日中韓の学生混成チームが協働し、研究成果を発表した。さらにこのSS期間中には、SUAE Asia Forum 2017を開催し、同日開催された国際シンポジウムでは、国際化を積極的に推進する大学の教育者を全国から招へいし、各大学で実施している高等教育の国際化プログラム(学生のモビリティの活発化、日本人学生の海外経験の強化、海外大学との単位相互認定など)について、情報・意見交換を行った。

<タイプA-②>

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### 【日本人学生の派遣】

釜山大学校へ23名、同済大学へ14名、計37名の学生を派遣した。

#### 【外国人留学生の受入】

サマースクールを開催し、釜山大学校より7名、同済大学より8名の学生を受入れた。また、9月よりセメスター留学を開始し、釜山大学校より4名、同済大学より3名の学生を受け入れ、サマースクールとセメスター留学の受入を合わせて、22名の受入を実施した。

	H29
日本(J)での受入	C 11 K 11
中国(C)での受入	J 14 K 12
韓国(K)での受入	J 23 C 43

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

3大学コンソーシアムによる教育運営委員会を開催し、国際標準モデルとなる協働教育プログラムおよび学位授与プロセスを整備した。また、30年度より実施するダブルディグリープログラムに関する学務上の規則や条件整備を行い、2月に釜山大学校とダブルディグリー協定を合意した。近々同済大学との協定も締結予定であり、質の高い教育プログラムの実践を実施している。

さらに、8月に国内外より4名の委員を招聘し、アクレディテーション委員会を開催し、本事業のこれまでの実績と協働教育プログラムの取り組みに対する外部評価を実施した。そして、①教育プログラム内容、②目標設定、③大学コンソーシアムの運営、④協働教育プログラムの内容および実施、⑤教育評価の方法、⑥情報公開の各項目について外部評価を実施し、いずれの項目に対しても概ねA評価(優れている)の結果を得た。



<平成29年度 8月25日 アクレディテーション委員会>

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

#### 【外国人学生受入】

留学生が安心してプログラムに参加できるようオリエンテーションを開催し、課程修了のための履修方法等の指導を行った。また、本学に指導教員を配置し、在籍・出席等の管理や指導環境を整えた。さらに、8月に開催したサマースクールでは、コア科目・実践科目にTAを配置し、外国人学生の効果的な履修支援を行った。

#### 【日本人学生派遣】

海外渡航と就学に関するオリエンテーションを実施し、情報伝達や注意喚起をおこなった。また、留学時に受講する授業やその他の活動における理解力や伝達力を支える十分な語学力を獲得できるよう英語力向上セミナーを2ヶ月間(計15回)3クラス開催し、計23名の学生を支援した。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

ホームページを開設。本プログラムに関する情報や取組みを積極的に掲載し、情報発信を継続的に行った。また、本プログラム概要と平成30年度より開始するダブルディグリープログラムの詳細情報を盛り込んだリーフレット(日本語版、英語版)を作成し、3大学の学生と教員、関係大学等に配布し、プログラムの情報公開と普及のために活用した。さらに、本プログラムや参加学生による成果をもとに実施報告書とサマースクール等の成果本を刊行し関係者に公開した。

### ■ グッドプラクティス等

サマースクール時に実施したデザインキャンプでは、都市空間(福岡市)の具体的な課題について、異なる国籍の建築学を学ぶ学生が協働で実践的に取り組むことで、相互理解を深めるとともに、自国の都市に対する新たな認識を得たと言える。また、教育システムの観点では、学生の就学や教員の指導を支援する教育Webシステムを構築・活用することで、事前に講義内容や教材を共有し、学生が課題を事前に準備できるようにしたことや、帰国後も3大学の学生による共同作業を行うことが可能としたことで、課題の提出やグループ活動が円滑に行われたことが挙げられる。